

第1回 愛知県ため池保全検討会 議事録(要約版)

日時：平成18年6月6日(火)

午後1時30分から午後4時30分

場所：愛知県庁西庁舎1階 第15会議室

発言・説明者	内 容 等
事務局	「1 ため池の歴史」、「2 ため池の現状」についての説明。
(質疑・意見)	
後藤委員	農業用ため池の定義について「雨水を貯める」という記載があるが、実際には都市化に伴い雨水も貯められなくなった池もあり、「雨水を貯める」ということに、少々ズレを感じる。
事務局	あくまでも従来のため池の定義ということで資料には記載しており、雨水も貯められない池が実際にあるかは不明だが、少なくとも雨水を貯めているものと考えている。 農業用として利水機能を失ったため池も、農家の団体あるいは市町村の農業部局が管理している施設については、本検討会のなかで審議する対象として検討していただきたい。
河合克己委員	半田市でも都市化が進んだところが多くあり、集中豪雨の際、治水機能が劣化し、段丘のかなり高いところで洪水が起こり、ポンプを増設した例もあった。ため池を潰したことにより悪影響を与えていることも含め、ため池の保全について県が検討することは大変ありがたい。
松本委員長	ため池保全構想の基礎資料であるため池資料集のデータで受益面積1ha以上・未満とあるが、この1haの意味は何だと考えるか。 ため池保全構想の対象となるのは、受益面積1ha以上のため池と考えてよいか。
事務局	ため池における国や県の補助事業の補助対象の基準が、受益面積によって設けられており、県の補助事業では受益面積1ha以上で、補助が受けられる事業があり、様々なデータを集めている。1ha未満のため池では特別なものを除き、補助対象外でデータの項目が少ないのが現状である。 受益面積1ha未満だから今回の検討対象にしないとは考えておらず、規模が小さなため池でも重要な施設として検討の対象にして頂きたい。
松本委員長	利水機能を失ったため池も対象とするのか。委員の共通イメージとして持っておく必要があると思うが、如何。
大沼委員	農業面で見ると利水機能を失ったため池は役に立たない無用の長物でしょう。しかし、環境面から見ると、そういうため池ほど非常に貴重な生物多様性を支えるベースとなっている。面積の大小や利水機能などの評価に環境からの観点も加え、ため池の層別を考えたい。小さなため池についても調査や評価の対象から外さないで頂きたい。

松本委員長	単に農業用のため池、利水機能を果たしているため池に限定せず、むしろその機能を失っている池ほど話題にし、委員共通のイメージをもっておこうと思う。
事務局	「3 ため池に関する課題と対応状況」について説明をおこなった。
(意見交換)	
松本委員長	行政側からの課題と思われるが、それを受けて、ため池に対する課題や今後の対応などに関して、行政レベルではなかなか抑えきれない問題や課題を中心に、順番に日頃の活動の中からお意見を伺っていきたい。
天野委員	水管理での課題としては、畑地かんがいでは非常に水質が重要であるため、高い水質基準を要求される。 雨水が小河川を通りすぐに海へ流出されるため、海苔や魚介類にも若干の影響を与える。そういった中、ため池は一時貯留機能を持つ。 なかには流域を持たず、豊川用水だけで補給しているため池も存在し、そのような様々な種類のため池を水辺環境や水質、水難事故対策などの問題も含めて、対策についても考えなければならないと思っている。
大内委員	一般住民に、ため池の良さや役割を知っていただくことが大事である。次に、ため池の実態を確認し、多面的機能・役割を含めた評価をおこない、その結果で今後の方向付けをおこなうことが必要である。そして、行政や関係機関、住民が一緒になって保全プランを作り、保全していくことが大切と考えます。そのなかで一般住民に、ため池の役割を理解し、親しみや愛着を感じてもらふ施策も、合わせてやるのが大事である。 住民の意見を吸い上げるときに気を付けたいことは、少数意見も吟味し、数の論理で判断しないことです。 ため池を残すためには、どうしたらよいかの視点が大切です。 元々地域に住んでいる住民は、数で押されてしまうことが、あります。 私たちの地域では、新住民の多くは、ため池を埋め立て、グラウンドや駐車場にしたいとの声が高かった。
大沼委員	水質については環境基本法に基づく水質環境基準などもある。この基準では、水域の状況や利水目的に応じてランク分け(類型指定)がある。水質基準というのは、一概に農業用水基準だけではないということも抑えておく必要がある。 ため池には多面的機能(価値と役割)があるとしただけではわからないことがある。個々の機能はお互いに矛盾するところがあり、それをどのように調整するかということも、ひとつの焦点である。保全構想の検討の中で、県内約 3000 のため池をどのような機能に着目してランク分け(あるいは層別)をおこない保全していくか、それを考えていく必要がある。
河合克己委員	知多及び尾張東部丘陵地の風土や特性、生活についての研究もおこなっており、ため池の多面的機能のひとつにある「歴史文化財」の観点に興味があり、これから検討を行うなかで勉強させていただこうと思っている。
河合武勝委員	犬山市から南知多町までの24市町に、愛知用水が連絡しておりますため池が414池ありまして、農業用水だけでなく多面的に利用されております。 私どもが管理します三好池は、カヌー等により湖面利用され国体の会場としても利用された経緯があり、また、提灯船を浮かべ三好池祭りとして地域住民に親しま

河合武勝委員	<p>れておりますことから、農業用水として利用する側、湖面利用者或いは地域住民、池の管理者との間でいろいろな問題がおこります。</p> <p>同じ目的の農業として利用するにも、元々の水田利用のため池であったものが、ほ場整備等により、新たに畑かん施設(揚水機)の設置に伴い、恒に稼働水位を保たねばならない、洪水調節のため降雨前に水位を下げる等ため池有効利用がなされなくトラブルの原因にもなっております。</p> <p>農業サイドとしては、出来るだけ多くのため池を残し、計画されております有効貯水量が有効に利用でき、多面的に整合出来るため池保全ができればと思います。微力ではありますが頑張ってお参りたいと思います。</p>
川崎委員	<p>いままでの意見の中には、保全構想のなかで機能や規模に捉われることなく、農業用水としての機能が損なわれているところほど重視していきたいといった意見があり、行政側としても非常に勉強になる意見だった。</p> <p>ただ、行政側の対応として、ため池の農業用水としての観点から補助事業などのメニューはたくさんあるが、かんがい用という整理のなかで、各種の事業が作られており、それ以外のものも整理しようとする限界がある。</p> <p>水を使った場合にため池に生息する生物など環境面での影響については勉強していきたい。また水利権者と財産管理者の理解と協力も必要になる。</p>
後藤委員	<p>大府市新池を活動の場とし、市民・企業・行政が協働して作った水車揚水方式のプラントで水質浄化対策を行い、2年間のCOD測定値では30%除去することができた。</p> <p>多面的機能のなかで「②自然環境の保全」ということがあるが、「自然環境」という言葉は、植生や野生動物、水質、景観などいろいろな捉え方があるので、自然環境についての注釈を入れてもらうとわかりやすい。</p> <p>環境基本法に基づく水質環境基準のなかでは、河川、湖沼等に分け、利用目的の適応性で農業用水についてのものがあり、農業用水水質基準との整合をとって、ほしい。</p> <p>参考資料で農地防災事業実施要領のなかに農業用水に関する水質基準が載っているが、どのようなため池に適用するかよくわからないところである。</p>
清水委員	<p>大井池には20m堰堤があり、危険性も高いため、管理に悩んでいるところである。</p> <p>市街化により水田が減少し、雨水調整ができなくなっていることもあり、本当に必要性のあるため池管理の見方を考えていくにあたり、山間部にある池の管理と平野部にあるため池の管理を分ける必要があると思っている。</p>
奥田課長補佐 (彦坂委員の代理出席)	<p>行政側と市のため池管理における課題ということで、洪水調整も含め、農業利水のため池については市が管理しているが、農業利水としての機能を失い、受益面積がなくなったため池もあり、水利権の定義等についてはぜひ勉強したい。</p> <p>また、環境面では生態系保全やブラックバスの放流などに対し、行政としてどのように対処しているかについても勉強したい。老朽化した個人ため池については、行政側としてどういった位置付けで施設の改修等が行われているのかについても教えていただきたい。</p>

山崎委員	<p>資料のなかで、管理者及び所有者別の状況があった。県内ため池の大半は市町村や農家、集落で管理していることがわかるが、その現実はその地域の農家の方々が管理されているのが実態であり、昨今の農業情勢から考えて農家だけでは維持管理していくのは難しい。</p> <p>多面的利用や機能など、保全していかなくてはならないという立場は十分わかるが、ため池を実態的に管理する立場からすると、将来の管理は「地域ぐるみの管理」が今後のあり方ではないか。</p> <p>また、国では平成19年度から、「農地・水・環境保全向上対策」ということで、地域ぐるみで農村環境を守っていきこうという施策もできてきたので、積極的な活用のなかでうまく組み入れて頂ければありがたい。</p> <p>ため池の保全は、条例等に位置付けするくらいの課題である。</p>
松本委員長	<p>資料について少し気づいた点では、課題のなかには生態系保全や生き物に対することがどこにも書いてない。資料として欠落している。</p> <p>また、ため池の条件などによるある程度の類型化が必要ではないかという意見もあり、今後、調査や構想をまとめる上での方向性を示す意見である。</p> <p>ここで県関係部局からもご発言いただきたい。</p>
水地盤環境課	<p>昨年度、愛知県では「あいち水循環再生基本構想」を策定し、そのなかで、ため池の保全ということを生態系や親水性などの水辺空間等で構想のなかに位置付けている。</p> <p>ぜひ、この検討会で県のあり方を明確にして、ため池を身近な空間として保全されるような構想が出来るようお願いしたい。</p>
松本委員長	<p>水質基準は農業用水以外にも基準があるといった意見もあり、農水関係だけではなく、できるだけいろんな関係部局の調査資料などの提供をお願いしたい。</p>
事務局	<p>「4 構想(案)の内容、目的」、「5 県内ため池の調査」、「6 今後の予定」について、事務局としての構想イメージ・調査内容等を提示し、説明。</p>
(質疑・意見)	
大内委員	<p>モデルため池の調査について、各農林水産事務所で1つということか。調査は農林水産事務所の方々が実施すると理解すればよいか。</p> <p>モデルため池の考え方は、調査対象が少な過ぎる。『愛知県ため池構想』制定の元となる大切なものであるので、可能な限り多く調査すべきです。</p> <p>関係機関と委員のすり合わせの場としてやるのであれば意義もあり、その場合も、多面的機能のなかでそれぞれの機能別に2つずつくらい実施していただきたいと思う。</p>
松本委員長	<p>ため池保全計画の指針について、それぞれの池ごとに現状、目標で3つ星がついているが、星が多いほどいいのか。</p>
事務局	<p>そのイメージでご提案させていただいた。</p>

松本委員長	<p>こういった分類がため池のひとつの累計に役に立つという気がするが、この中にもう少し具体的なものを入れた方が望ましいと思われ、大内委員の発言の意図は、こういう形で分類して、それぞれのため池の将来の利活用目標を選ぶということによいか。</p>
大内委員	<p>できれば、調査は農林水産事務所だけではなく、県民サイドも参加する2本立てを考えて欲しい。20ページのため池保全計画(案)の縦軸の調査項目の中で、構造などの諸元調査は、農林水産事務所が中心にやり、生態系や景観、親しみなどは、県民サイドにやっていただく。また、生物相の詳細調査は、別途専門家などに実施してもらおうとして、県民には、現地へ行けば、誰でも判るような項目にすれば、たくさんのため池調査は可能です。</p>
松本委員長	<p>ため池保全計画(案)のこの調査は、アンケートで聞くというわけではなくて、それぞれ事務所の担当者が実施するのか。</p>
事務局	<p>モデルため池の調査について、ため池保全構想策定の補助のなかで、県土連に委託をしているので、その職員と農林水産事務所の助けも借りるため、そこがメインで現地の調査を実施する予定である。</p>
松本委員長	<p>県土連と、土地改良の担当者が実施するというので、アンケートでもいいが、住民の方に意見を求めて調査するということは考えていないということか。</p>
事務局	<p>現地調査と住民の方がため池にどう関わりがあるか、どんなことを期待しているかというのは切り離して考えていた。住民へのアンケートはできるだけ回答率を上げるので、市町村から各区長、役員さんなどを通してアンケート用紙を配ってもらい、現地調査とは別でアンケート調査をする予定だった。</p>
松本委員長	<p>そうすると、住民のため池に対する思いなどを汲み取る部分がなかなかないように思われるがどうか。</p>
事務局	<p>アンケートで汲み取ろうと思っていた。例えば生態系保全、治水のように、テーマに沿った池の調査であれば、その専門家に調査の手法を聞くなど、少し時間があるので努力したい。</p> <p>意見の中で調査の数を増やすという意見もあったが、できればバラエティーに富んだ地域や項目で調査したいと思っているので、今の提案の池に限らず、ほかに候補があればあげて頂きたい。</p> <p>モデルため池調査の数について、8つにしたのは予算面もあり、数を増やすと住民アンケートなどの細かな調査に予算措置が十分できない。そのなかでも極力テーマを増やしたり、ある地域の中で複数のテーマをもって、複数の池を調査したり、手法を考えて、次回の第2回検討会で、調査の具体的な池などの調査内容の素案を提案するので、意見を頂きたい。</p>

大内委員	<p>アンケートは、やらなくて良いと考えます。</p> <p>住民アンケートは一見よさそうだが、ため池に日頃から接している人や、多面的役割を理解している人の割合が低いと、出てくる答えは、設問により予測でき、参考になるような結果は出てこない。また、意図せぬ結果が出ても、無視は出来ない。</p> <p>ため池の現状調査から得られた結果は、今後の保全構想を立てる上で、生きた情報になってくると思われるので、これに重点をおいたらよい。その中で、計画(案)の左側の専門的な部分と、右側の感覚的に評価できるような項目にして、その右側部分については、県民全体にため池に対して関心を持っていただくきっかけにするために、できるだけ県民を募って簡単にチェックできるように実施したらどうか。</p>
松本委員長	<p>20ページの下にある左半分の諸元的な流域面積、受益面積などは、行政サイドが必要なデータであり、右半分の項目では立地条件や、周辺の都市化の進行状況など、イメージできるものであればよいと思われ、現状のため池が、非常に汚れているのか、ゴミが多く浮いているのかなど、右側の項目を膨らませて、すでに把握している課題もあげて、できるだけ数多くまわってもらい、意見をとるかたちで進めていただきたい。これが基礎資料になるため、県内ため池の現状をつかみ、それぞれの評価を集計し、どのような対策をとるかということが可能になっていくと思われる。一番大きな課題を抱えているところを、最初にやっていくという考え方も必要であるので、この調査を充実させようではないかという提案で、私も全くそのとおりだと思う。</p>
事務局	<p>もう一度、説明内容を確認させていただきたい。</p> <p>20ページで説明した、ため池保全計画(案)というのは、平成19年度以降、市町村に対しての将来計画のひな形のつもりで提示をした。</p> <p>21ページの全県ため池の調査については、受益面積1ha以上で、従来のため池資料集のデータを補足する意味で、各市町村の農業部局にお願いしようと思っていた。</p> <p>モデルため池の調査は、県土連にお願いして現地調査を行い、かつ地域住民へのアンケートを実施する予定だった。</p> <p>ご提案があったのは、県内全ため池の調査項目をもう少しよくわかるようにやらどうかというご提案なのか、モデルため池の調査を平成19年度以降のため池保全計画を意識したかたちで、住民参加での評価などを実施したらどうかというご提案でしょうか。</p>
松本委員長	<p>20ページのため池保全計画(案)にあるような評価に関する項目調査を、基本計画の段階に入る前に実施しなければならないと思うので、県内全ため池の調査でやっておく必要はあると思われる。</p> <p>モデルため池の調査に関しては、県内全ため池の調査と同時並行で、先導的、先進的な事例、きちんと維持管理されている事例などを整理し、例えば近々事業化が決まりそうなものを、調査を兼ねてやっていくといったように、短い期間で構想をつくるなかで実施せざるを得ないと思われる。</p> <p>県内全ため池調査と同時並行で進め、モデルため池の事前の評価等にあたっては、できるだけ住民参加などワークショップ的な形式でモデルとして試行的に実施してみるというニュアンスでどうか。</p>

事務局	<p>住民参加でのこういう調査は実際はなかなか難しいかと思われ、そういった下地のあるところだと取り組みやすいと思われるが、例えば、大内委員が活動されている竹村新池で、いまの活動も含め、活動している人と、いま検討しているような調査をするのは可能でしょうか。</p>
大内委員	<p>十分可能です。例えば、学区内のため池を、先生や地域のボランティアと児童が組んでやるやり方もあり、総合学習の一環としても取り組める。県だけではなく市町村などの行政サイドにもお願いして募ってやれば、調査に必要な人員は十分集まると思われる。</p> <p>県民参加のための調査シートについては、別途(案)を提示したい。</p>
大沼委員	<p>予算や時間の制約もあることから、県内に約3,000あるため池の調査(21 ページ)は、現地調査を予定していないと考えていいのか。</p>
事務局	<p>県内全ため池の調査は、書面上の調査である。</p>
大沼委員	<p>県内全ため池の調査における調査対象を1ha以上に限定するという事務局提案について。自分が調査してきたため池の多くが1ha未満の池であり、その中には貴重な池も少なくない。市町村のため池台帳には1ha未満のため池も載っている。そのため池も含めて調査して欲しい。</p> <p>県内約3,000あるため池のうち、どの池が生態学的、生物多様性の観点からみて価値があるかということだが、他県ではランドサットのデータを使って、良さそうところをピックアップし、現地へ調査に行くという方策をとっている例もある。</p> <p>別の方法として、池の形が丸いか四角いかといった池の形や、何十パーセント護岸されているかという護岸率、といった簡単な数項目を調査票に付け加えるだけでも、その池の様子が見えてくると思われる。</p> <p>周辺環境についてであるが、県内のため池はほとんど谷池で集水域をもっており、その集水域である里山とため池との水収支、生態学的な関連が大事になる。池の周辺がどれくらい林で囲まれているかという調査項目もあると良いかと思う。</p> <p>水質についても同様で、実際測定しなくても、見た目で、4段階くらいのランクをつくるなど、少しでも情報を増やせないか。</p>
河合克己委員	<p>モデルため池の調査を、今年すぐに実施しなければならないのか。20・21ページの調査をすることによって、ため池の類型化ができ、その類型化にもとづいてピックアップしていったほうがいいのか。</p> <p>20・21ページの調査を、委員の皆様が付け加えた調査を、全部の池でやりたいので、今年はそれをおこない、来年また予算をとって、モデルため池の調査を重点的におこなうことはできないか。</p>

事務局	<p>県内全ため池の調査については、市町村の協力を得て実施しようと考えている。</p> <p>モデルため池の調査については、県土連に委託して実施します。200池ほど持っている市町村もあるため、通常業務外で実施して頂くことは、今回の内容だけでもかなり厳しいのが実態である。</p> <p>内容については、委員皆様のご意見を参考に、アレンジしていきたい。もう少しじっくりやったらどうかというご提案もあったが、モデルため池の調査は県の単独調査費が今年度1年ということもあり、その中で検討会を設けて構想の素案を作って頂くということで予算化している。</p> <p>構想は県全体を網羅することはできないと思われ、ある項目についてひな形的なものを提案させていただき、構想としての考え方や事例を示し、その後じっくりやるのは平成19年度以降と考える。平成19年度に全市町村策定するわけではない。早急に整備を考えているところとは一緒にやっていきたいと思っているので、保全計画については何年かかけて、地に足をつけてやっていきたい。</p> <p>今年度、保全構想を立ちあげて、それぞれの市町村あるいは地域において、自分と身近にあるため池ではこういう評価ができ、将来にわたってのビジョンとして、保全計画を誘導していこうというのが今年度の狙いである。</p> <p>20ページにある保全計画(案)では、現状のため池と関わりのある住民のみなさんで評価していただき、将来どうしていこうという議論や、評価ではこの項目は五つ星だとか三つ星だとかを議論することにも意義が有ると思うし、そういった保全計画を作ってもらうことで、市町や地元を促していこうという狙いがあるので、平成18年度の内容として様々なことを実施したいということはあるが、そのあたりをご理解頂きたい。</p>
松本委員長	<p>この保全構想は今年度中につくる予定であるが、保全構想をつくるのに基礎資料は当然必要になり、どのようなため池が愛知県の中に分布しているか、どのようなポテンシャルを持っているか、どんな可能性をもっているか、現状がどうかなど、やはり調査結果がないと、ビジョンという共通のイメージを見出せないし、住民がわかりやすいものでないと意味がないので、とくに多面的機能としていろいろな言葉が並べられているが、もう少し具体的なものとして何種類かあるとわかりやすくなり、地元の方に密接に入り込んでいるものが重要である。できたらそういうものの調査に予算を裂いてほしいという委員の主旨はわかっていたかと思う。</p> <p>県内全ため池の調査が、市町村のボランティアでやっていただくということであれば、そのなかで専門家の判断を統一しながら、項目をあらためて相談させていただき、モデルため池の調査については、具体的にそれぞれの課題を解決するテーマを掲げて、そのテーマにふさわしいものや考え方を選んで実際にやってみるといいし、少ない公共事業予算の中で、優先順位をつけていくというのも重要になってくるので、地元の方々が真剣にとりくんでいるところは優先順位を上げて、最終的なものにしていくというステップも重要だと思う。</p> <p>県の意向に従って調査し、それについて我々としても自由に意見させてもらい、また課題を中心として、生物の多様性がなぜ壊れているかといった観点もため池の中にきちんと汲み入れていただき、調査してもらうということでよいか。</p>
清水委員	<p>農業用ため池の水の必要性というのは、数だけでいうと何十分の一、何百分の一だと思われ、環境整備の方からするとアンケートの怖さがあり、アンケートしたらあんなに危険な水量の多いため池は必要ないという結果になる危険性もあるので、アンケート対象者については注意が必要である。</p>